

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	36人	算数	36人	理科	36人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
------	----	-----	----	-----	----	-----

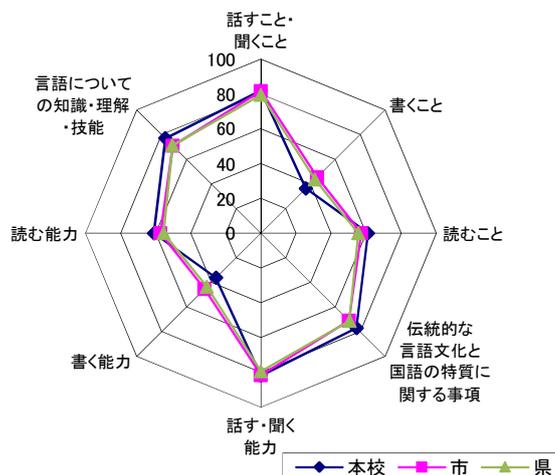
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.9	81.6	79.4
	書くこと	36.2	45.4	43.6
	読むこと	61.0	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	81.9	81.6	79.4
	書く能力	36.2	45.4	43.6
	読む能力	61.0	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	77.1	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

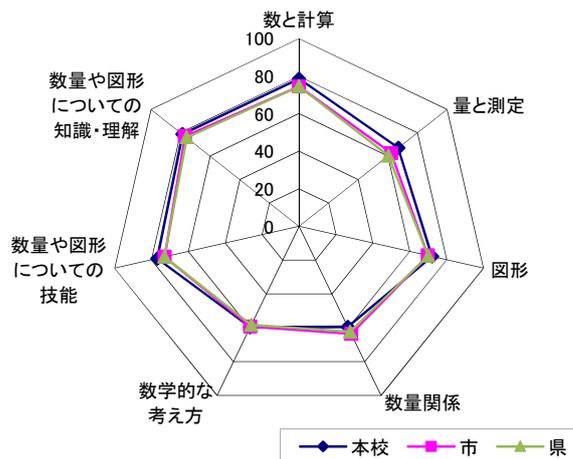
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○校内正答率81.9%で、市の平均とほぼ同じで、県の平均に比べて2.5ポイント高い。</p> <p>○「話し合いにおいて司会者の役割を進行する。」についての正答率は94.2%であり、市の平均に比べて6.7ポイント高く、県の平均に比べて6.7ポイント高い。</p> <p>●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する。」について正答率は71.4%で、市の平均に比べて2.7ポイント低い。</p>	<p>・国語だけでなく、他の教科・領域においても、話す聞く機会や場の設定を工夫していく。</p> <p>・グループやクラスでの話し合いを多くさせる。司会者は、進行表に沿って進行し、提案者は考えが伝わるように話し、参加者は自分の意見を言うようにして、各自の役割を果たせるように指導する。</p>
書くこと	<p>●校内の正答率は36.2%で、市の平均に比べて9.2ポイント、県の平均に比べて7.4ポイント低い。</p> <p>●「文章構成を意識して報告レポートを書く。」についての正答率は60.0%で、市の平均と比べて12.3ポイント、県の平均に比べて9.9ポイント低い。</p> <p>●「メモや友達の見解を基に、報告レポートに内容を書く。」についての正答率は22.9%で、市の平均と比べて12.5ポイント、県の平均と比べて11.1ポイント低い。</p>	<p>・行事における作文指導やノートの記術、メモを使った報告レポートなど、生活の中での具体的な場面を捉えて、伝えたい相手や内容に応じた文章構成について指導していく。</p> <p>・本や文章、リーフレットやパンフレットを利用し、アンケートなどを行い、文章を書くようにさせたい。</p>
読むこと	<p>○校内正答率は61.6%で、市の平均に比べて3.8ポイント、県の平均に比べて5.5ポイント高い。</p> <p>○「叙述を基に、登場人物の内容を捉える。」についての正答率は80.0%で、市の平均に比べて10.4ポイント高く、県の平均と比べて12.3ポイント高い。</p> <p>●「文章を読んで感じたことや考えたことを発表する。」についての正答率は2.9%であり、市の平均と比べて、3.3ポイント、また県の平均と比べて3.0ポイント低い。</p>	<p>・説明文の学習では、指示語や接続語について気を付けるように指導していく。</p> <p>・物語文の学習では、登場人物の性格を押さえ、登場人物同士がどのような関係があるか、どのような役割を担っているかを考えながら読むように指導していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○校内正答率は77.1%で、市の平均に比べて6.0ポイント、県の平均に比べて5.7ポイント高い。</p> <p>○「漢字の読み(公園のごみを拾う。)」についての正答率は74.3ポイントであり、市の平均と比べて31.2ポイント高く、県の平均と比べて32.3ポイント高い。</p> <p>●「日常に使われている簡単な単語のローマ字による書き方」についての正答率は42.9%であり、市の平均と比べると1.7ポイント低く、県の平均と比べると8.3ポイント低い。</p>	<p>・新出漢字を教室に掲示したり、各単元において小テストやまとめのテストを行ったりし、漢字の読み・書きの定着を図る。</p> <p>・ローマ字は、案内板、パンフレット、コンピュータ等、身近なものとして触れる機会が増えているので、それらを指導に活用することで、関心をもって取り組めるようにする。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.6	74.5	74.6
	量と測定	67.1	62.4	60.4
	図形	72.1	69.9	70.1
	数量関係	59.4	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	59.6	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	76.9	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	78.8	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

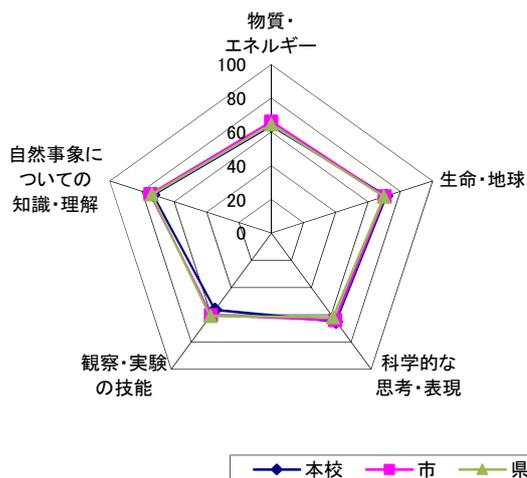
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は78.6%であり、市より4.1ポイント、県より4ポイント高い。</p> <p>○答えが4位数になるたし算は、市より7.1ポイント、県よりも6.9ポイント高く、よく身に付いている。</p> <p>●計算の順序に合うように()を書き入れる問題では、全体では市・県より6ポイント以上と高いが、上位層と下位層の差が50ポイント以上あり、二極化が見られる。</p>	<p>・全体的に基礎的な内容は正答率が高く、朝の学習の成果が見られる。今後とも継続して取り組ませていきたい。しかし、基礎的な内容であっても、計算の位が増えると正答率に差が出ており、習熟の二極化が見られる。児童の理解に合わせた指導や、習熟度別のクラス分けなど、個別の指導も必要と思われる。</p>
量と測定	<p>○全体的な校内正答率は67.1%で、市よりも4.7ポイント、県より6.7ポイント高い。</p> <p>●口を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題では、市より15.4ポイント、県より11.6ポイント低い。</p> <p>●未知の数量を口として、数量関係を表した線分図を選ぶ問題、はかりが示す重さの読み取りでは、一部の児童で0ポイントと未定着である。</p>	<p>・正答率のポイントだけを見ると、口を用いた乗法の式の問題でつまづいている児童が多く見られる。朝の学習や宿題プリントなどを使って意識的に復習を行う。</p> <p>・数直線の問題、はかりの問題で理解の差が激しいため、個別の指導が必要。朝の学習や少人数での学習時に個別指導を行い、習熟を図る。</p> <p>・時間や重さ、長さや単位変換を身に付けさせるために、日常生活の中から課題を見つけ、習熟を図れるようにする。</p>
図形	<p>○校内正答率は72.2%であり、市より2.2ポイント、県より2ポイント高い。</p> <p>○箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ問題では、校内正答率が68.7%であり、市の平均より18ポイント高い。</p> <p>●折り紙を2つに折って切った後広げてできる形を選ぶ問題では、市の平均より8ポイント、県の平均よりも5.7ポイント低い。</p>	<p>・円の直径や半径についての知識はほぼ身に付いているが、図形の特徴を多面的に捉えたり作図をしたりすることはまだ定着していない。今後は、朝の学習や家庭学習を利用して作図の問題を多く取り入れ、作図の手順や用具の使い方をしっかりと理解させていきたい。</p>
数量関係	<p>●校内正答率は59.4%であり、市より4.2ポイント、県より2.9ポイント低い。</p> <p>●棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明する問題では、校内正答率が22.9%であり、市の平均より7.5ポイント低い。</p> <p>●等分除の問題について除法の式を立式し答えを求める問題では、上位層と下位層の差が84.6ポイントとなっている。</p>	<p>・棒グラフの問題では、1目盛りがいくつを表すのかを繰り返し指導したり、復習させたりしていきたい。また、言葉で書いて説明する活動を、授業の中に多く取り入れるようにしていきたい。</p> <p>・除法の式を立式し答えを求める問題においては、まだ未定着である児童がいると考えられるため、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、個別指導を行うようにする。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.7	66.1	64.4
	生命・地球	71.2	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	64.9	64.1	61.9
	観察・実験の技能	56.4	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	73.2	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>●校内正答率は63.7%で、市の平均と比べて2.4ポイント、県の平均と比べて0.7ポイント低い。</p> <p>○実験結果からゴムをねじる回数と進む距離を推測する問題の校内正答率は88.6%で、県の平均より16.9ポイント、市の平均より14.8ポイント高い。</p> <p>●「光の性質」に関する問題は全体的に正答率が低く、特に虫眼鏡で集光した所の明るさと温度の変化についての問題は、校内正答率が54.3%で、県の平均より24.1ポイント、市の平均より24.4ポイント低い。</p> <p>○電気の流れる通り道の名称についての問題は、校内正答率が88.6%で、県より17.5ポイント、市より13.3ポイント高い。</p> <p>●明かりがつかつなぎ方を推測する問題の校内正答率は45.7%で、県の平均より7.9ポイント、市の平均より9.4ポイント低い。</p>	<p>・観察・実験においては、単に活動を楽しむだけで終わることのないよう、観察・実験のねらいや目的を明確に示すことで課題意識をもって取り組めるようにし、観察・実験結果への理解を深める。</p> <p>・観察・実験から分かったことについて、一人一人が書いた考察を基に、ペアやグループで説明し合ったり吟味し合ったりする活動を取り入れることで、自然事象に対する理科的なものの見方・考え方を育てるとともに、科学的な言葉や概念の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>○校内正答率は68.6%で、市の平均と比べて0.8ポイント、県の平均と比べて1.4ポイント高い。</p> <p>●虫眼鏡の適切な使い方についての問題は、校内正答率が40.0%で、県の平均より10.9ポイント、市の平均より9.7ポイント低い。</p> <p>○昆虫の体の色とすみかの関係について考察する問題の校内正答率は85.7%で、県の平均より20.6ポイント、市の平均より14.5ポイント高い。</p> <p>○時間によるかげの変化のしかたについての理解を問う問題では、校内正答率が54.3%で、県の平均より10ポイント、市の平均より8.8ポイント高い。</p> <p>●記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する問題の校内正答率は40.0%で、県の平均より8.7ポイント、市の平均より10ポイント低い。</p>	<p>・観察・実験で使用する器具の名称や操作方法の定着に課題が見られる。児童一人一人が器具を操作する時間を十分に確保したり、器具を使う機会を意図的に設定し名称や操作方法を繰り返し確認したりすることで、体験的に知識・技能の定着を図る。</p> <p>・観察・実験の結果を考察したり学習のまとめをしたりする際には、キーワードや話型モデルなどを示すことで、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

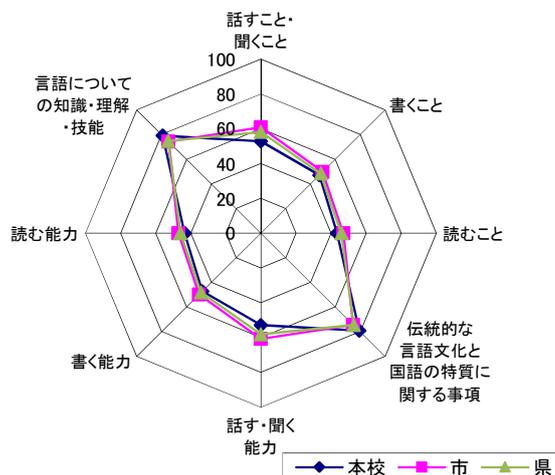
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の児童の肯定的な割合が100%であり、県(92.2%)より、7.8ポイント高い。日々の学習が、自分の将来へとつながっていることが実感できている。
- 「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の児童の肯定的な割合が71.4%であり、県(62.2%)より、9.2ポイント高い。自分なりに学習を考えて取り組む習慣が少しずつ付いてきている。
- 「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の児童の肯定的な割合が80%であり、県(66.8%)より、13.2ポイント高い。辞書を積極的に活用していく習慣や分からない言葉への興味関心の高まりが見られる。今後も、自力で学ぶ方法を身に付けられるよう働きかけていきたい。
- 「自分が勉強がよくできる方だと思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」の児童の肯定的な割合が共に51.4%であり、県(59.8%, 64.4%)より低い。自己肯定感を高められるよう一人ひとりが認められるような場を作ったり、達成感を得られるような取り組みを行ったりしていきたい。
- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の児童の肯定的な割合が62.9%, 60%, 54.3%であり、県(75.6%, 78%, 73.3%)よりも大幅に低い。教師や友達同士で会話をしたり、授業中に話合い活動をしたりすることが楽しく感じられるような雰囲気づくりを行ってきたい。また、話合いを通して問題解決を行ったり、互いに親しみを感じさせたりすることで話合いをする価値に気づかせていきたい。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の児童の肯定的な割合は、60%, 57.1%と、それぞれ県(68.7%, 64%)よりも低い。計画的に家庭学習に取り組む意識に乏しい。家庭学習を定着させるためにも、計画表等を活用し、自分で見通しをもってから取り組めるように働きかけていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.8	60.8	58.1
	書くこと	47.2	49.8	48.3
	読むこと	43.4	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.2	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	52.8	60.8	58.1
	書く能力	47.2	49.8	48.3
	読む能力	43.4	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	79.2	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

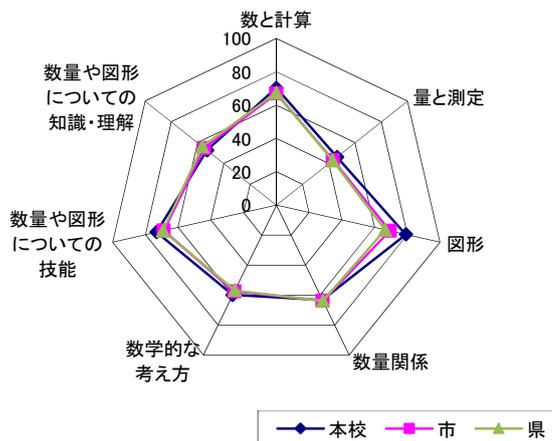
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は52.8%で、市の平均に比べて8ポイント、県の平均に比べて5.3ポイント低い。 ●「話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すこと」についての正答率は64.5%で、市の平均に比べて10ポイント、県の平均に比べて11.8ポイント低い。 ●「話し合いにおいて司会者に役割を理解し進行すること」についての正答率は47.9%で、市の平均に比べて10ポイント、県の平均に比べて4.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでの話し合いの場を多く経験させ、司会者を中心に、相手の話を注意深く聞くことで、内容に即した話し合いができるよう指導する。 ●朝の会や学級活動のスピーチ活動では、話の構成を考え、要点をおさえさせてから自分の話したい内容の話をさせる等、継続した指導により、話す力や聞く力を身に付けさせる。 ○国語はもとより他の教科・領域においても、互いに話したり聞いたりする機会や場の設定を工夫し、互いの意見を尊重した話し合いができるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は47.2%で、市の平均に比べて2.6ポイント、県の平均に比べて1.1ポイント低い。 ○「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理すること」についての正答率は45.8%で、市の平均に比べて1.3ポイント、県の平均に比べて1.9ポイント高い。 ●「インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書くこと」については、市の平均に比べて7.4ポイント、県の平均に比べて7.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の際の作文指導や新聞作りやノートの記述等では、主題の設定及び主語述語の関係や修飾語の使い方について個別指導を行い、事柄のまとまりや前後の文の関係、また接続語の使い方等に気を付けながら段落を構成するよう指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は43.4%で、市の平均に比べて3.6ポイント、県の平均に比べて2.5ポイント低い。 ○「掲示物の内容に合う資料を選ぶこと」についての正答率は83.3%で、市の平均に比べて4.1ポイント、県の平均に比べて7.2ポイント高い。 ●「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むこと」についての正答率は81.3%で、市の平均に比べて7.2ポイント、県の平均に比べて6.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文の学習では、接続語や問いかけの文等をポイントに、段落ごとの関係や全体の組み立て方等について指導していく。 ●物語文で、登場人物の心情の変化や情景の変化を読み取る力をつけるために、読書タイム等を活用して、読書に関する興味関心を高める。また、図書室の利用や図書の紹介等を取り入れて、物語を読む機会を充実させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は79.2%で、市の平均に比べて4.8ポイント、県の平均に比べて4.4ポイント高い。 ○「漢字の書き(次の試合ではかつ)」についての正答率は79.2%で、市の平均に比べて14.6ポイント、県の平均に比べて18.8ポイント高い。 ●「漢字の構成(部首 たれ)」についての正答率は60.4%で、市の平均に比べて2.7ポイント、県の平均に比べて13.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室に新出漢字を掲示したり、各単元において小テストを実施したりして漢字の読み・書きが定着するよう指導する。 ●家庭と連携して、漢字のドリル学習を進め、慣用句やことわざ等も適宜紹介しながら継続的に指導する。 ●漢字の成り立ちを漢字辞典等で、漢字のでき方や構成について調べて、同じ部首や似たような漢字を取り上げて練習するよう指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.3	66.9	67.4
	量と測定	46.3	43.2	43.0
	図形	79.2	69.4	66.5
	数量関係	63.3	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	59.9	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	73.1	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	52.8	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

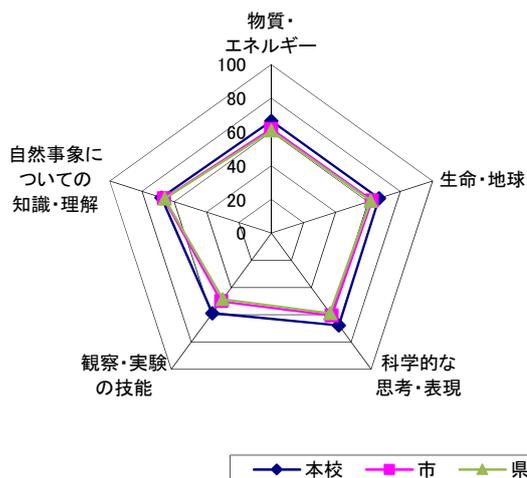
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は70.3%であり、市平均と比べて3.4ポイント、県平均と比べて2.9ポイント高い。</p> <p>●ある小数は0.01が何個集めた数かを選ぶ問題の校内正答率が37.5%で、市の平均よりも10.7ポイント低い。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習などを活用して計算問題に取り組みさせることで、今後も計算力の向上を図る。</p> <p>・0.01をもとにした小数の表し方の定着を図るため、数直線を用いた説明を行ったり、児童同士が説明し合う活動を取り入れたりする。</p>
量と測定	<p>○図をもとにした角度の求め方や、式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題では、校内正答率が市の平均よりも高いが、無回答率が市の平均よりも6～7ポイント高い。</p> <p>●はがきのおよその面積を選ぶ問題の校内正答率が29.2%で市の平均よりも6.5ポイント低い。</p>	<p>・ペア学習やグループ学習などを用いた対話的学習を行うなど工夫することで、説明する力の習熟を図る。</p> <p>・面積の単位についての概念が理解できるよう、具体物を活用しながら習熟を図る。</p> <p>・身近なものの面積について予想させる場面や求めさせる場面を設定することで、定着を図る。</p>
図形	<p>○平面上にあるものの位置を表す問題では、校内正答率が79.2%であり、市の平均と同じで、県の平均と比べて5.2ポイント高い。</p> <p>○与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成させる問題では校内正答率が79.2%であり、市平均と比べて19.6ポイント、県平均と比べて20.1%高い。</p>	<p>・今後も作図の手順やコンパス・三角定規の使い方について、個別に指導し習熟を図る。</p> <p>・今後も立体図形等の具体物やデジタル教材を活用してそれぞれの図形の特徴等の理解を深めさせ、習熟を図る。</p>
数量関係	<p>●校内正答率は63.3%であり、市平均と比べて0.4ポイント、県平均と比べて0.6ポイント低い。</p> <p>●二次元表の欄にあてはまる数を求める問題やグラフの活用問題などでは、校内正答率が市や県より1～3ポイントほど低く、児童一人一人の習熟度に関きが見られる。</p>	<p>・グラフから情報を読み取り活用する場面を設定するだけでなく、根拠をもとに話し合いを行うなどの対話的な学習に、より一層取り組んでいく。</p> <p>・二次元表やグラフの活用法について個別に指導し習熟を図る。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.5	61.7	60.7
	生命・地球	66.7	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	67.8	60.6	58.9
	観察・実験の技能	58.9	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	68.0	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○校内正答率は66.5%であり、県平均より5.8ポイント、市平均より4.8ポイント高い。</p> <p>●「沸騰した水の中から出るあわの正体」について短答式で答える問題では、25.0%であり、県平均より20.5ポイント、市平均より21.0ポイント低い。</p> <p>○「電気の働き」の内容では、校内正答率は、76.4%と県平均より19.6ポイント、市平均より17.8ポイント高い。</p>	<p>・全体的な傾向として、短答式で答える問題の正答率が低い。授業の評価問題や学習プリントなどで短い言葉で書く活動やまとめを自分たちで書かせる活動を増やし、改善を図る。</p> <p>・「温度による水の変化」の正答率が低く、空気と水を区別できていない児童もいる。既習事項を復習するとともに、今後単元で様々な物質の変化を扱うときは、一つ一つを区別させながら実験に取り組みさせる。</p>
生命・地球	<p>○校内正答率は66.7%であり、県平均より5.1ポイント、市平均より4.3ポイント高い。</p> <p>●「オオカマキリの図と同じ季節のヘチマの様子がわかる」設問の正答率は58.3%であり、県平均より5.3ポイント、市平均より5.4ポイント低い。</p> <p>○「気温の変化から天気の様子を推測し、理由を説明する」設問の正答率は68.8%であり、県平均より17.4ポイント、市平均より11.4ポイント高い。</p> <p>○「1日の数時間ごとの月の動き方を方位で表す」設問の正答率は75.0%であり、県平均より10.4ポイント、市平均より11.9ポイント高い。</p>	<p>・オオカマキリとヘチマの成長のように、季節による生物や植物の生育の様子について関連性をもたせながら指導していくとともに、自然への関心を高められるように働きかけるようにする。</p> <p>・観察などでは、動画を見せたり、家庭での観察がしやすいよう配慮したりすることで、実感を伴った理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の児童の肯定的な割合は60.4%で、栃木県(49.6%)より10.8ポイント高い。自信をもって学習に取り組んでいる児童が多いと言える。発言の内容だけでなく、発言できることを褒め、全体に広げていきたい。
- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の児童の肯定的な割合は91.7%で、栃木県(81.4%)より10.3ポイント高い。授業者が児童の意見を出しやすいような工夫をしていると言える。今後も継続させ、より多くの児童が意見を言えるようにしていきたい。
- 「クラスは発言しやすい雰囲気である」の児童の肯定的な割合は87.5%で、栃木県(80.5%)より7ポイント高い。児童が、安心して学習に取り組むことができていると言える。
- 「家で、学校の授業の復習をしている」の児童の肯定的な割合は81.3%で、栃木県(68.3%)より13ポイント高い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の児童の肯定的な割合は75%で、栃木県(67.9%)より、7.1ポイント高い。この二つの項目から、復習することの大切さを理解しているだけでなく、きちんと実践できているということが分かる。今後も続けさせ、確かな学力の定着につなげていきたい。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」の児童の肯定的な割合は、64.6%で、栃木県(71.4%)より6.8%低い。復習やテストの間違い直しだけでなく、自分が苦手意識を感じている単元や項目について、どのように7取り組んだらいいか、学校で指導する時間を設け、自分の力を高めることができる学習に取り組めるようにしていきたい。
- 「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた学習をしている」の児童の肯定的な割合は56.3%で、栃木県(62.3%)より6ポイント低い。決められた宿題以外の学習にも進んで取り組めるような声掛けや支援をしていく必要がある。また、学級懇談などで、保護者にも話をし、啓発を図っていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学びの創造」に向けての校内研修	自分の考えをまとめる時間を確保し、話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるように指導の工夫を図っている。 授業の中で、「上央小 授業スタンダード(学習のきまり)」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりした授業を展開し、児童の学習の定着を図っている。	「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」では、4、5年生の平均の肯定割合が8割になり、話し合いを通して学びを深めるスキルが身に付きつつあることがうかがえる。 「ノートに、学習の目標、まとめを書いている」の肯定割合は4、5年生とも8割を上回っているが、「授業では、学習したことを振り返る活動をよく行っている」は4、5年生の平均の肯定割合が7割とやや低かった。
基礎・基本の確実な習得	基礎・基本的な内容を意図的に繰り返し学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。 また、朝の学習時間を活用し、担任以外の先生たちによる学習の個別指導を行ったり、とちぎっ子の結果から、「今年度中に復習するところ」を洗い出し、復習をしたりしている。	4、5年生ともに、各教科の正答率が県・市とくらべて、ほぼ同じか上回っており、成果が見られた。国語・算数の基礎では、県との差がすべてプラスとなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をする。また、「家庭学習チャレンジ週間」の実施や学期ごとの「家庭学習名人表彰」等を行い、宿題に取り組む意識の向上を図っている。	「宿題は自分のためになる」の、4、5年生の平均肯定割合が9割を超え、定着が見られるが、「家で同じ時刻に学習している」「計画を立てて学習している」では、6割程度であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書く」において、一部の児童が未定着という2極化が見られる。	授業や生活の中で、「書く」時間を確保したり、個別に指導したりする。	国語や総合の学習のまとめなどにおいて、書くべき内容が分かり、それにあった事柄を考えながら書けるよう工夫したり個別に指導したりする。